

六

丙  
1020  
1020

立案	昭和	年	月	日
決裁	昭和	年	月	日

爵位課長

宗秩寮總裁

宮内事務官

故陸軍大佐高橋武介四名  
位階追陞件

昭和三年八月十日  
臺帳記入八月十四日  
電報報告

宮内省

裏面白紙



故陸軍大佐高橋武外四名位階追陞ノ件  
右謹ニ裁可ヲ仰々

昭和二十年八月七日

内閣總理大臣男爵鈴木貫太郎

内

閣

令位第二三九號

案起

昭和三十年八月

日

裁可  
昭和三十年八月

月

日

施行

昭和

年

月

日

内閣總理大臣

内閣書記官長

内閣書記官長

故陸軍大佐高橋武外四名位階追

陞ノ件

辭令案

例文

裏面白紙

内閣八陸在等一二二九

叙正五位

昭和三十年一月十三日死七

故陸軍大佐從五位

高橋

武

大正十五年十月二十五日陸軍歩兵少尉以來在職十年以上

右文武官叙位進階内則第四條ノ二ニ依リ  
謹テ奏ス

昭和二十年八月 日

陸軍大臣 阿南惟義



陸軍

裏面白紙

内閣人際第一三四號

叙正五位

昭和二十年二月二十一日元七

故陸軍大臣從五位

古木

俊夫

大正元年十二月十五日陸軍少尉以來在職十年以上

右文武官叙位進階内則第四條ノ二ニ依リ

謹テ奏ス

昭和二十年八月 日

陸軍大臣 阿南惟幾



陸

軍

裏面白紙

内閣人志

敍正五位昭和二十年一月二十五日死亡故海軍主計大佐從五位 行 藤 延 生

大正十四年十二月一日任海軍主計少尉以來在職十年以上

敍正五位昭和二十年三月五日死亡故海軍主計大佐從五位 山 本 藤 平

大正十二年九月二十日任海軍主計少尉以來在職十年以上

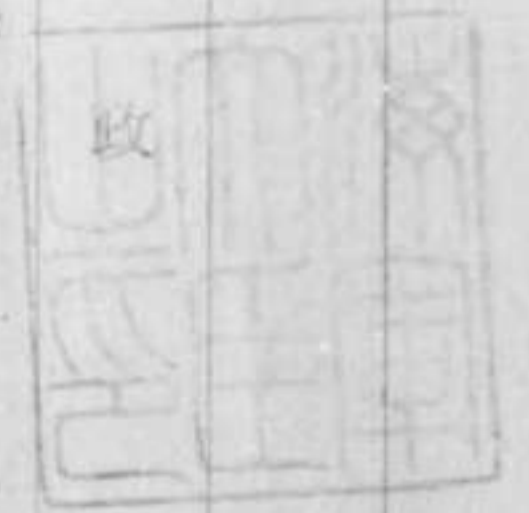
右文武官敍位進階内則第四條ノ二ニ依リ

謹テ 奏ス

昭和二十年八月二日

海軍大臣 米 内 光

海 軍



内閣人際第1100

叙正五位昭和十年七月曹死

改陸軍大佐 從五位 内田 東次

大正十年十月二十六日陸軍歩兵少尉以來在職十年以上

右文武官叙位進階内則第四條三依り

謹テ奏ス

昭和二十年七月三十一日

陸軍大臣阿南惟幾



陸軍

めくれず

裏面白紙

裏面白紙

陸軍第一一四六號

敍位ノ件 逕達

昭和二十三年八月 日

陸軍大臣 阿南 准 幾

内閣總理大臣 男爵 鈴木 寛太郎 殿

故陸軍大佐 高橋 武位階追陞ノ件

右進達ス。

追テ本件比島方面ニ於テ戦死セル 處當時連絡ニ且之カ確認ニ日子

ヲ要シ文武官敍位進階内則所定ノ取扱期限ヲ經過シタル次第ナル

モ特ニ昭和十二年八月二十一日附閣議第三九七號通牒ノ其旨ヲ適

用セラレ生前ノ日附ヲ以テ發令セララル様取計相成度

官報不登載

陸軍

144  
20.8.14  
付達



裏面白紙

陸位第一一五一號

敍位ノ件進達

昭和二十年八月 日

陸軍大臣 阿南 惟幾

内閣總理大臣 男爵 鈴木 寛太郎 殿

故陸軍大佐 古木 俊夫 位階進陞ノ件

右進達ス

進ニ本件ハ沖繩方面ニ於テ戦死ヲ遂ケタル 處當時連絡ニ且之カ確認ニ日子  
ヲ要シ文武官敍位進階内則以テ定ノ取扱期ニ經過シタル次第ナル  
モ特ニ昭和十二年八月二十一日附閣議第三九七號通牒ノ其旨ヲ適  
用セラレ生前ノ日ヲ以テ發令セラルル様取計相ニ度

陸軍

陸軍省  
20.8.14  
付受

145

海軍人第一七八九號

昭和二十年八月二日

海軍大臣 米内光政



内閣總理大臣 男爵 鈴木 貞太郎 殿

故海軍主計大佐行藤延生外一名、多年軍職ニ在リテ克ク其ノ任務ヲ盡シ功績顯著ノ者ニ候處大東亞戦争作戰從事中行藤海軍主計大佐ハ臺灣方面ニ於テ一月二十五日・山本海軍主計大佐ハ東支那海ニ於テ三月五日孰モ戦死政候ニ付テハ特ニ位一級被追陞成別紙上奏書進達ス

(終)

官報  
不登載

裏面白紙

陸位第一一二三號

敍位ノ件進達

昭和二十年七月三十一日

陸軍大臣 阿南惟

内閣總理大臣 另爵 鈴木貫太郎 殿

故陸軍大佐内田東次位階追陞ノ件

右進達 昭和二十年八月十二日 期着



147  
20.8.17

官報不登載

陸軍